

平成30年度第2回流山市史編さん審議会会議

- 1 日時 平成31年2月8日（金）
午後2時から午後4時30分まで
- 2 場所 流山市立中央図書館会議室
- 3 出席者等
(審議会委員)
相原正義会長 山田友治副会長 小川浩委員 下津谷達男委員
清藤一順委員 堀部昭夫委員 村田一二委員 建部節子委員
鈴木誠委員
(事務局)
後田教育長 飯塚生涯学習部長 小栗図書・博物館長 北澤学芸係長
小川主任学芸員 上條学芸員
(傍聴者)
なし
- 4 議題
 - (1) 会長・副会長の選出について
 - (2) 平成30年度流山市史編さん事業について
 - (3) 「流山市史研究第24号」の刊行計画について
 - (4) 恩田家文書目録の作成状況について
 - (5) 「ふるさと流山のあゆみ」改訂版について
 - (6) 今後の事業計画について
 - (7) その他

平成30年度第2回流山市史編さん審議会会議録

(北澤係長)

定刻となりましたので、平成30年度第2回流山市史編さん審議会を開会いたします。

審議会の議事は公開が義務付けられております。会議録の作成のため、録音をさせていただきます。なお、発言は挙手の上、議長より指名がなされてから発言をお願いいたします。

会議開催に先立ちまして、資料を確認させていただきます。先日送付いたしました「会議資料」及び「第1回市史編さん審議会会議録」のほか、会議次第及び委員名簿各1部を、お手元に配付させていただいております。

名簿につきましては、氏名等の記載内容をご確認いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

また、「流山の教育」、「博物館年報」、秋に開催いたしました企画展「小金牧」のパンフレット、12月に改訂いたしました「ふるさと流山のあゆみ」をお配りしております。これらについては、ご参考にしていただきたいと思っております。

続きまして、議事に入りたいと思います。流山市史編さん審議会条例第5条第3項の規程により、会議の議長は会長に務めていただく事となっておりますが、委員が改選されましたため、会長・副会長が不在でございますので、生涯学習部長が議長を代行いたします。

(飯塚部長)

議長を代行させていただきます、飯塚でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、議題(1)会長・副会長を選出したいと思います。立候補または推薦により決定したいと思いますが、委員の方から何かご意見ございますでしょうか。

(小川委員)

会長に相原委員、副会長に山田委員を推薦いたします。

(飯塚部長)

ただ今、小川委員から、会長に相原委員、副会長に山田委員との推薦がありました。ほかにごございませんでしょうか。

無いようですので、お諮りします。

会長に相原委員、副会長に山田委員の推薦がありましたが、承認される方は拍手をお願いします。

(拍手)

(飯塚部長)

拍手多数と認めます。

それでは、流山市史編さん審議会会長は相原委員、副会長は山田委員に決定いたしました。

ここで私は、議長の役目を終わらせていただきます。

(北澤係長)

新会長・新副会長は、会長席・副会長席へ移動をお願いします。

(相原会長・山田副会長 席移動)

(北澤係長)

ここからは、相原会長に進行をお願いいたします。

(相原会長)

(挨拶)

議事進行に先立ち、事務局に出席委員数の報告を求めます。

(北澤係長)

本日の会議につきましては、委員9名全員の出席をいただいておりますので、流山市史編さん審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立している事を申し添えます。

(相原会長)

会議成立ということですので、次第により議事を進行させていただきます。

はじめに、審議会委員の公募とその結果についてと、前回の議事録について事務局から説明願います。

(北澤係長)

最初に審議委員の公募の状況とその結果についてご説明させていただきます。昨年8月1日に広報に掲載、翌日2日から15日までの間が応募期間と

ということで委員の公募を行いました。今回につきましては、今日ご出席いただいている2名の方の応募がございました。8月28日に選考会、9月14日に面接を行いまして、鈴木委員と建部委員が公募委員として選任されたところであります。参考までに、前回は8名の方の応募がございました。以上が公募についての説明になります。

続きまして前回の議事録でございますが、会議に先立ちまして、委員の皆様には議事録を送付させていただいております。修正事項がございましたらご指摘いただきたいと思っております。以前の公募委員につきましては別途郵送で送付させていただきまして、修正なしということでご回答いただいております。議事録につきましては、修正点がないようでしたら、今後、ホームページに公開させていただきます。

(相原会長)

只今、事務局から「審議会委員の公募とその結果について」と前回の議事録について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(各委員)

意見なし。

(相原会長)

無いようですので、事務局は所定の手続きを進めてください。

(北澤係長)

了解しました。

議事録はホームページに掲載させていただきます。

(相原会長)

それでは、議題(2)平成30年度市史編さん事業実施状況について、事務局より説明を願います。

(北澤係長)

古文書解読事業につきましては、収蔵点数27,552点のうち、今年度は恩田家文書1,164点について解読を行っております。恩田家文書は総数9,125点ありますが、これまでで8,895点終了しております。現在も残りの未解読部分について進めておりまして、今年度中にはほぼ終了できるのではないかとの見通しを持っております。

市史啓発事業といたしまして、古文書講座を開講しております。講師は國學院大學兼任講師の種村先生をお願いいたしまして、前期につきましては10月6日から11月17日にかけて計4回実施しております。定員は40名でして、のべ124名の方の参加をいただいております。アンケートもとっております。古文書そのものを読みたいという方と、古文書に書かれている内容についての解説をしてほしいという方が半々という状況です。今後の古文書講座の進め方の方向性は、受講者の方は両方求めているということを経験した上で、検討していきたいと思っております。

また、古文書講座（後期）といたしまして2月2日から3月16日まで計4回、種村先生をお願いしているところでしたが、先生が体調をくずされて入院されてしまいまして、2月2日と17日については中止させていただいております。3月につきましては先生の体調の回復を以て先生にお願いするか、体調が優れない場合につきましては本館学芸員が対応して開催するという事で、参加者の皆様に連絡しております。

続きまして市史研究23号の刊行ですが、先日印刷業者が決定し、入稿いたしました。今後校正いたしまして、3月末までに刊行する予定になっております。

「ふるさと流山のあゆみ」第2版の刊行でございますが、今日審議委員の皆様にお配りをしておりますが、12月末に刊行いたしまして、一般販売も実施しております。

（相原会長）

只今、事務局からの「平成30年度市史編さん事業実施状況について」の報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

（小川委員）

古文書講座ですが、テーマを見ますと全体的なテーマ。これだと日本史のお勉強というくらいがありますので、市内の古文書も結構ありますので、その辺をアレンジしてみても如何でしょうか。

（北澤係長）

古文書講座の前期につきましては江戸全般の出来事に関してですが、後期につきましては市内に所在する古文書を利用します。

（相原会長）

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、次の議題に移ります。

議題（３）流山市史研究第２４号刊行計画について、事務局より説明を願います。

（北澤係長）

刊行時期につきましては、新元号２年度に刊行をする予定でございます。

内容は、２３号で検討されました、歴史・考古・民俗・自然・資料紹介・レポートを各分野ごとに掲載するというスタイルを維持しまして、今回の提案を含めて、次回の審議会までに執筆者を決定していきたいと考えております。

事務局より執筆候補といたしまして、いくつか挙げさせていただいております。まず歴史分野は、昨年秋に実施した企画展「小金牧」で、國學院大學兼任講師をされている高見澤美紀氏に「となりに牧場があるくらし」という講演をお願いしております。こちらは市内の駒木新田を中心とした文書から見る市内の村の有様についての講演をいただきまして、この内容について文章化をして掲載したいと考えております。

続きましてこの講演会に関連して、この中で紹介した十太夫新田・駒木新田「道敷一件」という、『流山市史 近世資料編Ⅱ』に既に刊本されている内容でございますが、こちらの内容について、同じ高見澤先生に書いていただければと考えております。大まかな内容ですが、十太夫と駒木新田の字境にある道の真ん中に、小金牧の野馬が亡くなって、それを村人が埋めてしまったのですが、どちらに埋めたか、村境に埋めた、埋めていないで村同士の訴訟問題になって、数年にわたってやりとりした一件でございます。詳しい内容について今まで触れられたことがありませんでしたので、掲載を考えております。

もう一つ、歴史と民俗に関わってくるものですが、文化財関係で昨年度から、流山５丁目の赤城神社の正一位関係の資料について國學院大學の神道学の先生に調査を依頼しております。今年度調査が終了いたしまして報告を待つばかりですので、こちらについての調査報告ということで検討しております。

民俗につきましては、秋元家住宅土蔵にあります、明治２３年前後を中心とした、当時の流山本町界隈の婚前の、村の食器の一式であったり、秋元さんが商いをされていたみりん・酒・味噌醸造に関わるラベルや店の看板など民俗資料が大量に出ております。こちらにつきまして、小川委員にご協力いただいて少しずつ調査しているのですが、こちらについての成果も発表できればと思います。可能であれば小川委員に書いていただきたく、提案させていただきます。

考古・自然分野につきましては未定です。

資料紹介につきましては、近年毎年、年一件ずつ市の指定文化財等指定しておりますので、こちらの案件につきまして紹介していきたいと思っております。

「レポート 流山を歩く」ですが、前回公募委員の本間委員からレポートという形で出していただきました。一回で終わるのは勿体ないと思いますので、できましたら公募委員のお二人を含めて、レポートの継続をしたいと考えております。

(相原会長)

只今、事務局からの「流山市史研究第24号刊行計画について」の提案について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(清藤委員)

24号の刊行にあたって、執筆の募集はやってらっしゃるんですか。

(北澤係長)

ホームページには随時募集するということで掲載していますが、今までの刊行の経緯を考えますと、投稿が来るということは非常に少ないです。

審議会の中である程度候補を絞って、その過程の中で投稿があれば、内容を精査して掲載をしていくという方向が宜しいかと考えています。

(相原会長)

公募はするということで良いですね。

(北澤係長)

はい。それは継続します。

(清藤委員)

新年度第1回審議会までに執筆者を決定するとありますけれども、公募して執筆者が集まらなかった場合、審議会で新たな方法を検討するという意味ですか。それとも博物館の方で対応すると考えていらっしゃるのですか。

(北澤係長)

こちらからある程度内容を絞って提案させていただきます。併せて委員の皆様から、こういった方がいて、こういった内容で書いてもらっても良いの

ではないかという意見も取り入れて決定していきたいと考えております。

(相原会長)

「レポート 流山を歩く」について、公募委員の方どうかという話が出ていますが、建部委員、鈴木委員、いかがでしょうか。

(北澤係長)

補足ですが、前回の公募委員2名の方が市史研究23号に書かれています。一人の方から、市史研究は専門的な内容を書く雑誌なのですが、それだけでなく、市民の方に読んでいただきたい、わかりやすい内容にしていくべきだという提案がございました。市民の目線から流山の歴史について報告をしていただければということで、せっかく公募委員になられましたので、そういう形で参画していただけたら、という提案になります。

(建部委員)

テーマは、自分からこうしてみたいと思うことができるのですか。それとも、ご相談申し上げて、こうしてはどうかと皆さんでお話していただいて決めるのですか。それとも、全く一から自分でやるのですか。

(北澤係長)

特にこちらから何について書いてくださいという制約は今のところ考えておりません。市民目線でフリーで、流山の歴史や自然について感じたことを書いていただければと考えております。

(鈴木委員)

文章は、どのくらいのボリュームで書けばいいのですか。

(北澤係長)

それについても特に制約は考えておりません。

(相原会長)

23号がまもなく出ますので、それを読まれて参考にされて、こういうことを書いてみようということで良いと思います。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、議題(4)恩田家目録作成状況について、事務局より説明願います。

(北澤係長)

まず、24号につきましては、今後執筆の内容について精査して、次回改めて提案させていただきます。

鈴木委員、建部委員には前向きにご検討いただければと思います。

議題(4)は上條からご説明いたします。

(上條学芸員)

目録作成状況ですが、1月24日現在、目録とりは史料番号2870まで、とった目録を今一度確認しておりまして、その確認作業が626まで終了しております。

大まかな史料の内容につきましては、1～194は廻状、布達類など支配関係、264～370は検地帳、名寄帳など土地関係、371～655は年貢割付・皆済目録など年貢関係、195～215は小金牧関係が多くなっておりまして、その中でも特に197～198は享保の鹿狩、205～210は嘉永の鹿狩関係の史料が出てきております。215は小金牧の開墾関係のものになっております。特筆すべきものといたしまして、264、1冊の堅帳に内容が3つ入っているものになりますが、恐らく前後欠と考えられますが、内容を見ますと天正検地のものではないかと思われまして、303地券一括において、開墾関係のものが何点か出てきております。477、寛政7年の鹿狩の勢子人足に関する記録が書かれているものがございました。

目録作成作業中に、目録に掲載すべきかについて検討すべき内容がありました。これについて委員の皆様のご意見を頂ければと思います。

(相原会長)

事務局の説明がありましたが、進捗状況、現時点までの史料の内容についてご質問等ありますでしょうか。

特にないようですので、事務局の提案について、ご議論をいただきたいと思っております。

(北澤係長)

補足になりますが、選択肢としてどのような扱いがあるかということをご相談したいということです。本日の審議会で決定するというものでもありません。

(小川委員)

議論を始める前に、私の記憶ですと、これまでに刊行された資料についても内容を選択した経緯があったと思います。ですので、しっかり議論した方が良いと思います。

(相原会長)

このまま出しているということはないと思いますね。表現を変える、どう変えられるのかということもあると思います。伏字と虫損とどう区別するかという問題が出てくると思います。研究者の要望があった場合に限り、厳密に記録をして控えておいて、読んでいただくということもあると思います。

(小川委員)

この問題は明治期の文書が一番困る。現在につながることにもなります。

(建部委員)

地域によっても扱いは違うのですか。

(小川委員)

自治体によって扱い方が違っていてもいます。

(議論)

(小川委員)

史料的な価値をなくさない中でどう扱うかが問題だと思います。

(村田委員)

周辺の市町村は、どうやって考えて市史を刊行したか、市史に関わる資料を刊行したか、どういう考えで、どういう判断で載せたかという資料を集めていただけると助かります。それを見せていただければ私たちも参考にできるし、事務局としても市としても大きな参考資料になると思います。大きな枠が決まったところでどうするか決まっていくものだと思うので、もともになる資料を周辺のものから集めていただいて、どうするのかと持って行かないといけないと思います。

(鈴木委員)

市民としてはありのままを知りたいというのもあると思います。

(再び議論)

(下津谷委員)

色々話が出ていますが、ここで議論をしても堂々巡りになってしまう。ですから、まず事務局にお願いしたいのは、周辺の市の担当者に直接会って話を聞いてください。

(北澤係長)

周辺の状況を確認し、どのように刊行しているかの調査を行い、次回以降随時報告をしたいと思います。

併せて近世文書と近代文書で対応が違うと思いますので、その点も精査していきたいと思います。

(相原会長)

それでは、周辺市町村の資料を集めていただき、次回以降議論を進めるという形にしたいと思います。

他にご意見のある方はいらっしゃいますか。

無いようですので、次の議題に移ります。

議題(5)「ふるさと流山のあゆみ」の改訂版について、事務局より説明を願います。

(北澤係長)

平成30年12月末に「ふるさと流山のあゆみ」の修正版が納品されました。今回の増刷は200部で、執筆者・関係各位等の配付以外の161部を現在販売開始しております。これまで平成27年度より初版本を販売しておりますが、27年度199部、28年度64部、29年度57部、30年度は売り切れてしまいましたので20部ですが、初年度以降は50～60冊程度の販売数が出ております。ですので、今回の修正版も2年半～3年ほどで在庫がなくなると判断しております。

今回の提案に関してですが、「ふるさと流山のあゆみ」を刊行する際、編集の最中から内容が難しすぎるのではないかというご意見があり、内容をわかりやすいものに修正すべきではないかということで提案をさせていただきました。基本的にはやさしい内容に変更したいということで、事務局の方針としては、現在のA5判ではなくA4判へ体裁を変更する、1項目ごとの内容を見開き2ページとして見やすいものとする、現在のものに関しては通史的なものがかなりありますので、流山の内容だけに絞って掲載する、というこ

とで検討をしていただきたいということで、提案させていただきます。

本日追加の資料で、改訂版の内容案をお配りしております。

(相原会長)

只今、事務局からの「ふるさと流山のあゆみ」の改訂版の報告について、ご意見のある方はいらっしゃいますか。

A 5判からA 4判へ体裁を変更したいということです。図などは文字が見えない。この大きさ(A 4判)になると見えるようになりますね。そして文章も読みやすくなる。

(村田委員)

A 4判にすると、一般的には中身がもっと入るようになるということだと思いますが、そういう理解で良いですか。

(北澤係長)

中身も見直しをして、概説的なところは他の本でもありますので、流山の内容に関して中身を増やすものは増やすということで対応していきたいと思っています。

前回小川委員からご指摘のありました、年表がなかったり、例えば指定文化財の紹介がなかったりしますので、そういった項目を入れるか否かもこれから検討して改訂版を作りたいと考えています。

(清藤委員)

この項目立てはもう決まっているのですか。

(北澤係長)

決まっていません。考古系が少ないのは重々承知しています。

(清藤委員)

旧石器と縄文が4ページで済まされるというのはちょっと不思議なんです。例えば中野久木だって2ページあるし、三輪野山のヒスイだって2ページある。縄文時代の食べ物でも2ページいっちゃいますから、今後十分考えていただきたいと思います。

(村田委員)

「ふるさと流山のあゆみ」を見ると、67ページの表の下、半分以上が空白

だったり、第3章の手前の1ページが丸々白紙なんですよ。こういった白い部分があちこちに見られます。勿体ないと思いますので、内容を増やして埋めるとか、中身を豊かにするとかなんとか考えて、編集の段階で事務局の方でやる問題だと思いますが、是非こういうところを埋めていかれたらいいなと思います。

(堀部委員)

60ページですが版面を目一杯使われていて、余裕がない。これだと読もうというか読みたいという気が起きないと思う。1行の文字数とか行数の問題。A4になった時にもうちょっとゆとりを持たせてほしいです。版面目一杯天地左右余裕がないという編集の仕方を改めていただきたいですね。

(鈴木委員)

サイズの話ですが、僕はこのサイズ(A5判)が気に入っています。大きいサイズだと見やすいというものもあると思いますが、このサイズ(A5判)だと持ち運びがしやすいので。

(相原会長)

今教科書がA4になっていますので、これからの人たちはこれ(A5判)が馴染みがない。一つの時代の流れかなと思います。

(北澤係長)

委員の皆様を確認させていただきたいのですが、内容をわかりやすくするというので改訂をするという方針で宜しいかということと、先程清藤委員からもご指摘がありましたが、内容を精査して、どこを削ってどこを充実させた方が良いのか、今後審議会で議論していただくということで宜しいかを確認させていただきたいと思います。

(相原会長)

改訂版の方針として、A5からA4に変える、1項目を原則見開き2ページにする、通史的なものはやめて流山の方針に絞るというご提案ですが、これについては如何でしょうか。

(清藤委員)

見開きで収まるということは重要なので、2ページは大事だと思います。ただし、どうしても収まらないものもあるので、原則ということ考えていた

だきたい。

また、図面も見やすいという意味では、A4の方が良いのではないかと。

(下津谷委員)

今のご意見それでいいんですが、これ重いんですよ。紙の質が良いから。これを何とかできませんか。

(鈴木委員)

紙が重いんだと思います。価格の問題になると思いますが、お金をかければできると思います。

(小栗館長)

事務局からこのような話をするのは恐縮ですが、事務局提案のA4判と、元からある「ふるさと流山のあゆみ」では、コンセプトがかなり違う気がします。私としては、相談を受けた段階では、「ふるさと流山のあゆみ」はあゆみとして、今度作るものは全く新しい名前のもので良いのではないかと、これ（「ふるさと流山のあゆみ」）は継続して生かして、新しいものはこれ（「ふるさと流山のあゆみ」）にこだわらないで新しくしたらどうかという意見を出したのですが、それは委員の皆さんのご意見を頂戴しようということになっております。一つの案として、あゆみの改訂版ではなく、新しい刊行物をつくるというイメージで良いのではないかと。

(相原会長)

全く新しいものを作るということですが、これ（「ふるさと流山のあゆみ」）をベースにしてということですか。あるいは全く新しいものですか。

(小栗館長)

見開きで見やすくということだと、こちら（「ふるさと流山のあゆみ」）は文章で説明するという形が主体ですので、コンセプトが違うのかなと。であれば新しいものにならざるを得ないかと。

(相原会長)

館長から新しいものはどうかという投げかけがあったわけですが、日数もかかります。検討時間とか、原稿の作成。これ（「ふるさと流山のあゆみ」）と新しいもの間に空きがでないかと。

(堀部委員)

議題(5)として出されているのは、あくまでも「ふるさと流山のあゆみ」の改訂版ということです。その中で、本来の目的である平易な内容として改訂版の編集を進めると。ということは、これ(「ふるさと流山のあゆみ」)があるから、少なくともこれ(「ふるさと流山のあゆみ」)よりは平易な内容にしようということができる。今館長が仰ったように全く新しく流山のあゆみを作るということになると、全く違う議題になってくる。どこまで誰がどういうふうにしてやるか、期間の問題もあるし、予算の問題もあるし、そんな簡単に改訂版をつくるというわけにいかない。

(相原会長)

期間・執筆者・予算の問題も出てくるので、色々難しいのではないかとということで、堀部委員はこれ(「ふるさと流山のあゆみ」)の改訂版でしょうか。

(堀部委員)

これ(「ふるさと流山のあゆみ」)の改訂版の話し合いですよ。平易な内容としての改訂版としての編集を進めるということになっているので。館長の仰っている話とは違うんです。だったら、議題(6)で別の方法を提案をしていただかないと。これ(「ふるさと流山のあゆみ」)を使って平易なものを作り替えていくという話ではなくなってしまいます。

(相原会長)

今日の議題は改訂版についてということですので、館長いかがでしょうか。

(小栗館長)

私としてはこれに固執するつもりはございませんが、一案としてそういうことも考えられるのではないかとということで、発言させていただきました。

(相原会長)

北澤係長いかがですか。

(北澤係長)

基本ベースは堀部委員の仰った形で進めるという方向で。

(相原会長)

これ(「ふるさと流山のあゆみ」)の改訂版をつくる、A4判として図版を

見やすく、文章をわかりやすく作り替える、ということで今日のところは宜しいでしょうか。

(村田委員)

私は基本的にこれで、改訂の方針に賛成です。

ただし、最後に「通史的なものはやめて、流山の内容だけに絞る」とありますが、必要なものは通史的なものは入って良いと思う。

(北澤係長)

全く否定するわけではありません。

(村田委員)

主は流山のことをやるんだよということを言いたいわけですよ。

(北澤係長)

はい。

(村田委員)

わかりました。

(相原会長)

通史的なものはやめるということですが、全国的な流れの中で押さえないといけないことは、それは必要だから良いということですね。

では、改訂版の方針に則って体裁を変更するというので、この会議は終わりたいと思います。

議題(6) 今後の事業計画について、事務局より説明をお願いします。

(北澤係長)

来年度の事業予定について報告させていただきます。

平成31年度の事業は、公開事業といたしまして、今年度と同じ古文書講座(前期・後期)計8回の開催を予定しております。それから、新規といたしまして、市史講演会の開催を予定しております。これにつきましては、市史研究23号の中で、相原会長もしくは岡村氏の民具調査の成果について、刊行だけではなく、筆者の方からのお話をということで、計画しているものです。

恩田家目録の作成業務につきましては今年度に引き続き実施いたします。

この他、柳澤家文書の目録作成も開始いたします。こちらは、再来年度の開催を予定している企画展の関係です。再来年度、災害関係で企画展を予定しております。その中で、柳澤家文書に関連史料が多くありますので、企画展準備とあわせてこちらの目録の作成にとりかかる予定でおります。

また、大学との協働事業と書かせていただきました。恩田家を中心として文書の解読は進めておりますが、臨時職員3名ですとなかなか事業が進まないという現状です。できるだけ新しい展開をとということで、大学の先生と学生さんを招いて、夏休みや春休みに協働作業を予定しております。

それから、今日の議題にもありました、市史研究第24号の執筆者の決定と、「ふるさと流山のあゆみ」の改訂版の内容の検討も進めていく予定です。

(相原会長)

只今の説明に対して、何かご意見のある方はいらっしゃいませんか。
柳澤家文書の企画展は2021年の予定ですか。

(北澤係長)

2020年の予定です。

(相原会長)

他に何か質問はありませんか。
それでは最後になりますが、その他について、何かご意見のある方はいらっしゃいますか。

(北澤係長)

本来、市史編さん審議会の定数は10名となっております。前期までは公募委員さんが3名いらっしゃいましたが、今回、最初に申しあげました通り2名の応募で、2名の方が委員になられ、現在1名欠員の状態となっております。公募委員の追加は通常いたしませんので、1名の欠員について、専門家の方を1名追加したいと検討しております。特に、本日の議題の中で古文書の内容もありましたので、文書関係の専門の方を1名追加で委嘱をしたいと考えております。本人にはまだ打診しておりませんので、今後検討して、次回第1回目の時には1名追加して10名の体制でいきたいと考えております。

(相原会長)

いかがでしょうか。宜しいですか。

では、そのように事務局の方をお願いします。

(小栗館長)

わかりました。

(相原会長)

他に何かありませんか。

長時間にわたり、ありがとうございました。

また来年度に召集がかかるかと思えます。宜しくお願い致します。ありがとうございました。

(北澤係長)

委員の皆様には長時間にわたりご審議いただきまして、ありがとうございました。